

授業科目名・形態	心理学	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	成 田 猛	開講期	1年~2年 翻	単位数 2

※福祉学科必修

【授業の主題と目標】

心理学で確認されているさまざまな事項を紹介する。人間の心理学的理解では、人間の知能・思考、パーソナリティ、感情などについてふれる。人間の成長・発達では、乳児期、幼児期、児童期などについてふれ、成人期、老年期の人々との質的相違を説明する。生活の場と心理的援助では、ストレスをとりあげる。人間理解のための心理的援助技法では、投影法、精神分析技法、カウンセリング技法等を紹介する。これらにより、受講者が心理学的な視点から人間を援助できるようになることを目標にする。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 学習・記憶
- 第 2 回 知覚
- 第 3 回 感情と動機づけ
- 第 4 回 知能・思考
- 第 5 回 パーソナリティ
- 第 6 回 適応・不適応
- 第 7 回 社会的行動
- 第 8 回 人間の成長・発達 (1)
- 第 9 回 人間の成長・発達 (2)
- 第 10 回 障害者・高齢者の心理
- 第 11 回 ストレス
- 第 12 回 検査・測定 (1)
- 第 13 回 検査・測定 (2)
- 第 14 回 心理療法 (1)
- 第 15 回 心理療法 (2)

【授業実施方法】

基本は講義形式。必要に応じてビデオ等を使用。

【教科書等】

二宮克美他著「ベーシック心理学」医歯薬出版 2008。なお、教科書に記載されていない事項については別資料で配付。

【参考文献】

必要に応じて紹介。

【成績評価方法】

出席および試験による総合評価。

【学生へのメッセージ】

心理学は抽象的な学問といわれる。講義では、日常における生の人間の姿が浮き彫りになるように説明する。教科書の記載事項は、我々の日常生活で体験される出来事と照合されながら解説される。これにより、心理学が身近になることを期待したい。

授業科目名・形態	生命科学	講義	必修・選択の別	選択	
担当者氏名	奥野智旦	開講期	1年~2年 開	単位数	2

【授業の主題と目標】

生命科学とは生物の特徴である生命を、物質的（分子的）根拠を示しながらそのヒトおよびその他の生物の生命システムの解説・解明についての分野である。この授業では、ヒトとの関連を重視して生物に共通する細胞の生理・構造に関わる主だった物質（タンパク・核酸等）、遺伝システム、生命を造り維持するゲノム、ヒトの生理（発生・成長・老化・再生・脳構造・がん・免疫）、生命科学技術のヒトへの応用と社会倫理、ヒトと他生物の共存・地球環境の保全等を取り上げ概説する。

【授業計画・内容】

- 第1回 生命科学の誕生, 生物とは, 生物の進化と系統, ヒトの起源と系統
- 第2回 細胞・生物の大きさ, ヒトの体の階層構造, 細胞を構成する分子
- 第3回 細胞内の機能分布（細胞小器官）
- 第4回 遺伝, メンデル遺伝学, DNA 二重らせん構造の発見, 遺伝子の複製, 親子の遺伝子
- 第5回 遺伝情報の転写・翻訳と DNA・RNA・タンパク, ゲノムと遺伝子, ヒトゲノム
- 第6回 遺伝子の働き, 遺伝子 DNA の構造と制御・多様性
- 第7回 ヒトの生理, 発生と老化, 生殖細胞・クローン動物, 幹細胞・再生医療
- 第8回 ヒトの脳構造, 神経細胞, 神経刺激伝達
- 第9回 細胞のがん化, 発がんの要因, がん遺伝子, 細胞のアポトーシス
- 第10回 食事とは, 消化・吸収, 食べた DNA・タンパク等はどうなるか
- 第11回 ヒトの代謝とエネルギー産生
- 第12回 感染と防御, 微生物と感染, 免疫, 免疫応答
- 第13回 遺伝子工学（技術）, 遺伝子組み換えの歴史と発展
- 第14回 遺伝子組み換えによる物質生産, 組み換え動植物, クローン技術, 幹・iPS 細胞
- 第15回 ヒトと環境, 生物多様性と地球環境保全

【授業実施方法】

講義形式

【教科書等】

文系のための生命科学（2008年, 東京大学生命科学教科書編集委員会編, 羊土社, 2,800円）

【参考文献】

基礎分子生物学第3版（2007年, 田村・村松著, 東京化学同人, 2800円）

【成績評価方法】

出席, 簡単なテストおよび期末試験の総合点

【学生へのメッセージ】

生命科学の発展は著しいので, 教科書を一度読んで, 最近の生命科学のレベルを理解してください